

ができるようすぐそばに二階建てを建てようとしている。」と、腹を立てながら教会に来ました。そして、私達はその人と一緒に祈りました。それまで、その人のご主人はずっと平屋の家を建てようとしていました。しかし、私達が祈った後、そのご主人は、「5階のビルを建てよう。」と言ったそうです。あれほど頑なに平屋をと言っていたご主人が、「5階建てのビルを建てる」と言って、計画を進めていました。すると、今度はその隣りの人が2階建ての計画をやめました。それで、全部うまくいきました。開拓教会は、トラクトや教会案内など一枚一枚配りますよね。もちろん私もそれをしました。しかし、東京辺りでは一万枚まいても一人しか来ませんし、特別伝道集会を開いても、本当にわずかな人しか来ません。自分から来た人は、明らかに神様が選んで導かれた人なので、教会の将来に計画と目的を持った人が来るのです。

己が好むところに吹く聖霊様

神様が生きて働かれると、私達の理解を超えたすばらしい御業をなしてください。ですから私達は期待するし、祈ることも楽しみになり、喜びとなります。そして、いつも神様が応えてくださることに感謝することを教会員に教えます。みんなが感謝をさげると、神様は喜んでくださり、次々と祝福してくださるようになります。ですから、先ほどの「吸引力」という言葉がふさわしいかどうかは分かりませんが、教会は、磁石が砂鉄を引き寄せるように、神様が人を引き寄せ、集めていくような、霊的な神の臨在される場所になるかどうかということが大きなポイントになります。私は様々な教会に奉仕に行きますが、この聖書学院に来た時には物凄い臨在を覚えました。ここはどれだけ祈り込まれているか、どれだけ聖霊ご自身が喜んでおられるかと感動しました。聖霊様は、「己が好むところに吹く」といわれているお方です。聖霊様は御人格（御神格）を持っておられます。御人格を持っておられるとは、好みがある、好き嫌いがあるということです。聖霊様はいつでもどこにでもいらっしゃいますが、働かれるかどうかは、ご自身の好みによります。どういう所に好んで吹くかという、聖い所です。聖霊様は聖いお方だからです。ですから、その場所が聖さを湛え、神様を称えて、へりくだり、この地の癒しのため、悔い改めのために祈っていくならば、神様がそこを浄化してくださいますね。聖霊様が降られて、臨在があふれてきます。私はかつて多摩川によく釣りに行っていました。以前はとても汚い川でしたが、最近では四万十川に次ぐ清流になりました。魚達も戻

ってきて、今では52種類にもなっているそうです。500万匹の鮎もいます。清流になると、魚達がリバイブしてきます。エゼキエル47章で、神殿の川が流れるところには、「あらゆる生物が生きる」とあります。そのように、あらゆる種類の人々が教会に引き寄せられてきます。これが全世界のリバイブしている教会の共通項です。

聖霊の器

一番の中心的なポイントは、「あなたがどれだけ聖霊様と親しい関係を築くかどうか」です。この関係があると、聖霊様は御人格を持っていますから、放っておけないのです。いいですか。聖霊様のほうが一方的に働かれるのですよ。私は、かつて、いろんなリバイバルリストを追いかけていました。そして、このリバイバルリストはなぜリバイバルを導いたり、火をつけて燃え上がらせたりするのか、と思っていましたが、ある時、彼らは、聖霊様の器なのだと気づきました。あるビデオで見たのは、牧師が聖書を開いて、ある聖書箇所を朗読しているだけで、天使の声が響くのです。その先生が聖書を読んでいるだけで、天使の賛美が響きわたって、働き始めるのです。そして天使が次々と一人一人の上に油を注ぐという状況になります。その先生がまだメッセージをしていないのに、聖霊様が一人一人の必要に応え始めていくのです。ある人は悔い改めに、ある人は霊的な傷の解放のために取り扱われ、ある人は主のために献身しよう、と促されていきます。すばらしいですね。人間の能力は本当にわずか、その力には限界があります。もちろん、人として一生懸命やることは大切です。思いを尽くし、力を尽くし、精神を尽くして主なる神を愛し、隣り人を自分のごとく愛していきます。又、私達が主の奉仕を忠実にするのは、本当に大事なことです。しかし、それ以上に、私達が「通り良き管であるかどうか」ということを神様は求めておられます。聖霊様が好んで吹いてくださるような器になるということ。聖い器、謙遜な器になること。聖霊様は、へりくだるものの上に豊かに働いて川のように流れていきます。川が上から下に流れるように、聖霊様は、へりくだった器を通して流れていくわけです。傲慢になったり、肉の思いや力が持ち上がってくると、聖霊様の流れをダムのように止めてしまいます。その流れが止まると、人々は神様の愛も恵みも祝福も感じなくなってきた、教会から離れ始めていきます。ある程度成長した教会で人の数が減っていくと、牧師には人間的な焦りが出てきます。人々を人間的に縛ろうとし、「他の教会に行ってはいけません」「何々してはいけ

ない、しなければならない」と人間的な圧力を、意識的・無意識的にかけ始めるのです。そうすると、教会は段々とカルト化していきます。宗教学的・律法的なものになってしまい、教会生活は義務的になり、又は、教会に行かなくなったら怒られるし、怖いから…となってしまいます。そして人々は疲れ果てて、礼拝の中でも死んだ状態、眠った状態になります。このような教会は実際にあるのです。

豊かな実を結ぶために

このような状態に陥らないために、私達一人一人がいつもへりくだり、聖霊様と親しい関係と環境を保つ必要があります。絶えず心碎かれ、神様の前に、「神様、あなたにしかこの働きはできません。この働きは肉によって始めたのではなく、御霊によって始められたのですから、御霊によって仕上げられなければなりません。聖霊様、あなたと共に働く器にしてください。」

学院顧問会、アメリカで開かれる！

■去る4月24日、創設者グリコ夫妻の長年の念願であったCFNJの日本側の顧問と、アメリカ側の顧問が一同に会する顧問会がダラスで行われました。日本からはご多忙の中、奥山実御夫妻と稲福エルマ師、米村英二御夫妻が参加してくださいました。以下はチャールズ・グリコ師のレポートです。

CFNJ（日本）の覆いであるアジアキリスト福音宣教会（CFAEF）の顧問の先生方は、CFNIの宣教週間（ミッション・ウィーク）で講義の依頼を受け、それぞれのクラスでご奉仕してくださいました。以下の写真は、奥山実師、稲福エルマ師、米村英二師が牧師・リーダーコース（ALPS）、世界宣教コース、児童伝道コースで教えておられる様子です。CFNI（ダラス）の学生や顧問の先生方は、日本から先生方が来られたことを非常に喜んでおられました。また、この訪問は、日本の顧問の先生方にとってもCFNJ（日本）の「母校」を間近で見て、体験される良い機会となり、又、CFNI（ダラス）のリーダー達との親交も深められ、聖霊様の力強い臨在と



■世界宣教コースで語られる奥山師



■児童伝道コースでメッセージをする米村師



■児童伝道コースで語る稲福師



■アメリカの顧問との記念写真

という祈りを生涯続けていくことです。こうして私たちは、聖霊様に用いられやすい聖い器として、通り良き管として神様と共に働き、豊かな実を結んでいくのです。

この後の講義では、これらのことを踏まえて、「では、日本はどのようにしたらリバイバルしていくのか」という本論に入りたいと思います。リバイバル教会、又、聖書的な初代教会を作り上げるために、私の講義を役立ててくだされば幸いです。

●天野師の全講義は録音・録画されています。購入ご希望の方は、学院事務局までお申込ください。――

・CD 500円(1時間)/全7時間

・DVD 800円(1時間)/全7時間

御力が、CFNIの1,000人の学生達に働いておられることを実感される時ともなりました。先生方は特に、賛美礼拝のすばらしさ、そして、50カ国からの学生がキリストにある兄弟姉妹として一つになっていることに感動しておられました。CFNJ（日本）はCFNI（ダラス）の公認の提携校であることを光栄に思います。CFNI（ダラス）で学びたいと願う方や、米大学の単位を取りたいと願う方は、CFNI（ダラス）の流れを受けている賛美礼拝や学び、学生生活を体験するためにも、又、CFNJ（日本）からCFNI（ダラス）に編入するために単位を持ち越すためにも、まず、CFNJ（日本）で少なくとも1年は学ばれることを心からお勧めします。